

Title	三田文学復刊の財務計画
Sub Title	
Author	榎本俊彦(Enomoto, Toshihiko) 高橋吉之助
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1984
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1984年度経営学 第328号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001984-0328">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001984-0328</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	榎本俊彦	主査	高橋吉之助
		副査	柴田典男
所属ゼミナール	高橋吉之助 研		矢作恒雄

## 「三田文学」復刊の財務計画

明治43年創刊の「三田文学」はその伝統に反し、財政的にはきわめて脆弱である。それ故いく度か休刊を余儀なくされている。歴史を振り返ってみても、今後の復刊計画を考えてもある機関からの資金的援助なしには成り立ち得ない。しかしながら他の機関から援助を受けるということは可能性として特定機関からの編集方針への介入を許容せざるを得ない状況をも創出しかねないし、編集方針を確固として保つことがむずかしくなると考える。そこでまず「三田文学」の歴史を検証し、いかなる内容の雑誌で、社会的にどのような位置づけをなされてきたのか、休刊の実態とはいかなるものであったのか等々について明らかにした。そしてその伝統を保つためには、すなわち「三田文学」独自の編集方針を堅持するためには経済的に独立すべきであるという観点から、現在「三田文学」を復刊させた場合の財政収支を推定した。その結果年々巨額の赤字が出るのが明らかになった。「三田文学」の内容にまで踏み込んで財政再建を考えるのではなく、「三田文学」はその伝統的な精神を保ちながら存続する点に価値がある、という認識に立って、財政再建案を立案する。すなわち、別の財源を確保するということであり、一つの考案として「三田文学会」がもつ経営資源を考慮して「塾生の投稿から構成される雑誌」を検討するに至った。「三田文学」に対する意識とこの「新雑誌」に対する意識を調査する目的で塾生に対してアンケート調査を行なった。その結果、「三田文学」会員への入会希望者「新雑誌」への投稿希望者、「新雑誌」の購読希望者が相当数存在することが判明した。よって「三田文学」会員の会費設定、「新雑誌」の掲載料、販売価格の設定を合理的で実現可能な範囲に定めることをもって「三田文学」復刊のための財源とし、これをもって本論文の結論とする。